年齢調べ

基準日からの日付の間隔ごとに値を集計する

◇機能

《年齢調べ》は、指定した「基準日」からの日数の間隔ごとに値を集計する機能です。年齢調べの結果を文字型フィールドの値ごとにグループ化して表示することも可能です。

《年齢調べ》では、対象となる日付時刻型フィールド(年齢調べの対象)、基準日、基準日からの日数のグループ (年齢調べ間隔)を指定し、数値型フィールド (小計フィールド) を集計します。

(例) 在庫マスターで、年末日を基準として、出荷されていない期間を30日ごとに分類し、数量を集計する。

● 年齢調べの対象:[最終出荷日]フィールド

● 基準日: 2022年12月31日

● 年齢調べ間隔:0~29日、30~59日、60~89日、90日以上

● 小計フィールド:数量

商品名	倉庫No	数量	最終出荷日
Α	01	40	2022/11/05
В	01	60	2022/12/15
С	02	70	2021/01/20
D	02	50	2022/12/05
E	01	90	2022/07/07
F	02	80	2022/11/22
G	01	100	2022/12/28

	基準日との日数差	年齢調べ間隔
\rightarrow	56	30~59日
\rightarrow	16	0~29日
\rightarrow	710	90日以上
\rightarrow	26	0~29日
\rightarrow	177	90日以上
\rightarrow	39	30~59日
\rightarrow	3	0~29日



《年齢調べ》の結果

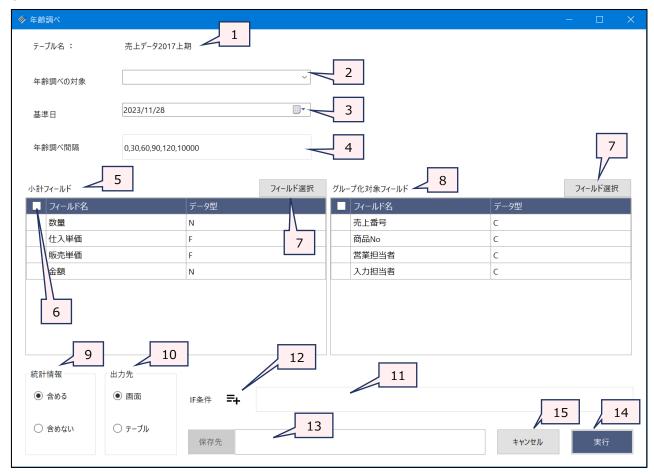
年齢調べ間隔	件数	件数割合	小計フィールド値 (数量合計)	合計割合
0-29	3	42.86%	210	42.857 %
30-59	2	28.57%	120	24.490 %
60-89	0	0.00%	0	0.000 %
90-	2	28.57%	160	32.653 %

「年齢調べ間隔」ごとに、 レコードの件数、割合、 小計フィールドの合計値 が算出されます。

◇メニュー

《分析》-《年齢調べ》

◇設定内容



- 1. テーブル名 : 操作の対象となっているテーブルが表示されます。
- 2. 年齢調べの対象(必須)
 - : 「基準日」からの日数を調べたい日付時刻型フィールドを指定します。
- 3. 基準日(必須):「年齢調べの対象」の日付と比較するための基準となる日付を指定します。
 - デフォルトで今日の日付が表示されます。
 - カレンダーのアイコンをクリックし、カレンダーから日付をクリックして選択することもできます。
- 4. 年齢調べ間隔(必須)
 - : レコードを集計するための日数の間隔をカンマで区切って入力します。 (例) 0~29日、30~59日、60日以上の日数ごとに集計したい場合: 0,30,60
 - デフォルトで「0,30,60,90,120,10000」が設定されています。
- 5. 小計フィールド(必須)
 - : フィールドの一覧で、集計する数値フィールドをクリックして選択します。
 - 小計フィールドには、数値型のフィールドのみが表示されます。
 - フィールドは、複数選択できます。選択した順に番号が表示され、集計結果として表示 する列の順番が決まります。
- 6. フィールドの全選択/全解除
 - : チェックボックスのオン/オフで、すべてのフィールドの選択/解除が行えます。

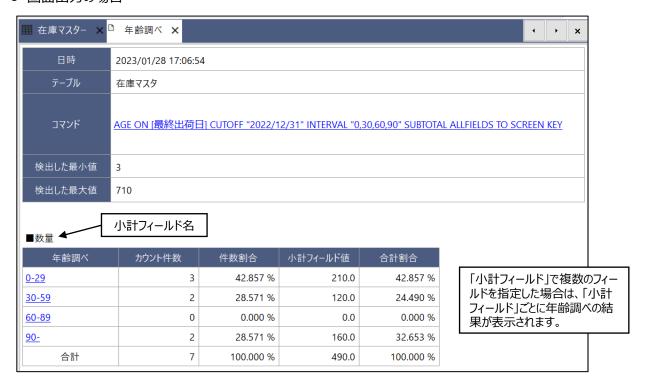
- 7. 《フィールド選択》ボタン
 - :「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。
- 8. グループ化対象フィールド(任意)
 - : 日数ごとの集計に加え、文字型フィールドの値でグループ化して集計したい場合に、グループ 化のキーとなるフィールドを指定します。
 - グループ化対象フィールドには、文字型のフィールドのみが表示されます。
 - 指定できるフィールドは、1つのみです。
- 9. 統計情報(必須)

:集計結果に統計情報を表示するか、表示しないかを指定します。 「含める」を選択すると、小計フィールドの平均値、最小値、最大値が表示されます。

- 10. 出力先(必須): 実行結果の出力先を選択します。デフォルトは、「画面」が選択されています。
 - ▶ 画面:実行結果を画面に表示します。
 - ▶ テーブル:実行結果を新規テーブルに出力します。
- 11. IF条件(任意): 抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。
- 12. 《式ビルダー》アイコン
 - :「IF条件 Iの条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。
- 13. 保存先(出力先が「テーブル」の場合は必須)
 - : 実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。
 - テーブル名の長さは、64文字までです。
 - 「出力先」で「画面」を選択した場合は、入力できません。
 - ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04 table」フォルダです。
 - 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。
- 14. 《実行》ボタン: 実行します。
- 15. 《キャンセル》ボタン: 実行せず画面を閉じます。

◇実行結果の表示

● 画面出力の場合

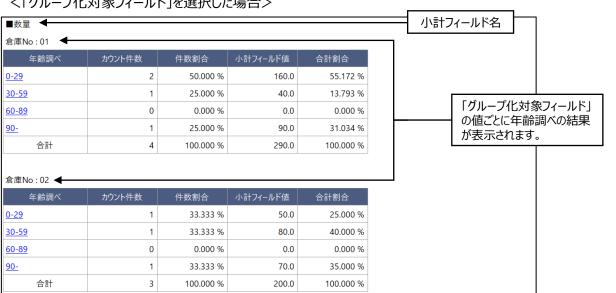


<「統計情報を含める」を選択した場合>

年齢調べ	カウント件数	件数割合	小計フィールド値	合計割合	平均	最小	最大
<u>0-29</u>	3	42.857 %	210.0	42.857 %	70.000	50.0	100.0
30-59	2	28.571 %	120.0	24.490 %	60.000	40.0	80.0
60-89	0	0.000 %	0.0	0.000 %	0.000	0.0	0.0
90-	2	28.571 %	160.0	32.653 %	80.000	70.0	90.0
合計	7	100.000 %	490.0	100.000 %	210.000	160.0	270.0

「年齢調べ間隔」ごとの統計情報(平均、最小値、最大値)

<「グループ化対象フィールド」を選択した場合>



● テーブル出力の場合

- 1列目に「小計フィールド」列が作成されます。フィールドの値は、小計フィールド名です。
- 合計の行がレコードとして出力されます。



<「グループ化対象フィールド」を選択した場合>

「グループ化対象フィールド」の値ごとにレコードが統合されたテーブルが作成されます。

(例) グループ化対象フィールド: 「倉庫No]フィールド

[倉庫No]フィールドの値: 01、02



合計の行は、値ごとに出力されます。

合計の行は、「年齢調べ]フィールドの値が「合計」となっているかどうかで識別できます。

◇操作ログ

AGE ON [年齢調べの対象フィールド] CUTOFF "YYYY/MM/DD" INTERVAL "n1,n2,n3,・・・" SUBTOTAL [小計フィールド1] [小計フィールド2] …またはALLFIELDS <u>IF 条件式</u> TO <u>出力先</u> OPEN <u>KEY</u> [グループ化対象フィールド] STATISTICS

- ※「CUTOFF」には、「基準日」の日付を記述します。
- ※「INTERVAL」には、「年齢調べ間隔」の日数を記述します。
- ※「IF条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。
- ※出力先は、「出力先」の選択により、記述が変わります。

出力先	ログ
「画面」を選択した場合	SCREEN
「テーブル」を選択した場合	"サブフォルダ名¥新規テーブル名"

- ※「グループ化対象フィールド」を選択した場合は、KEY [グループ化対象フィールド] が記述されます。
- ※「統計情報を含める」を選択した場合は、STATISTICSが記述されます。